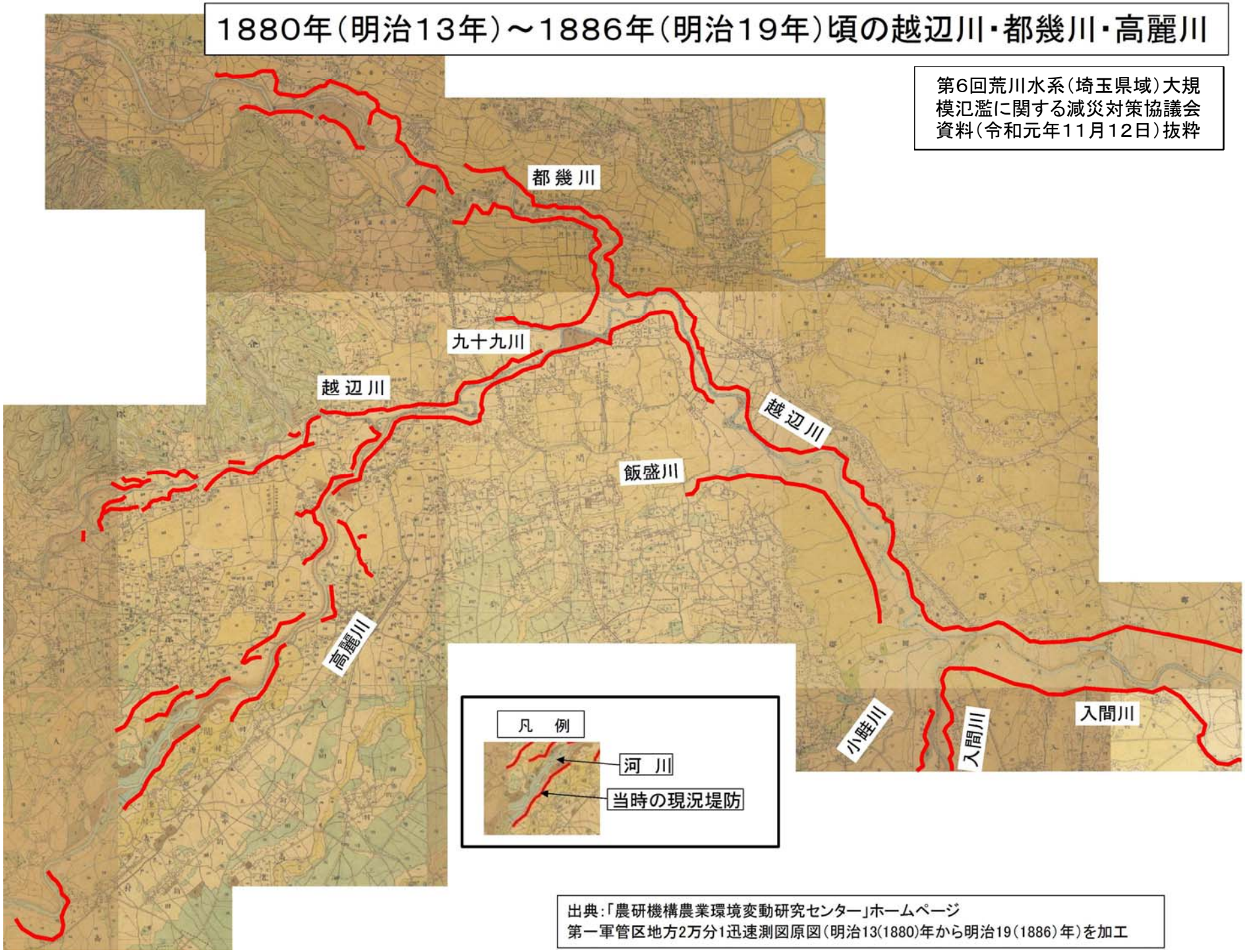
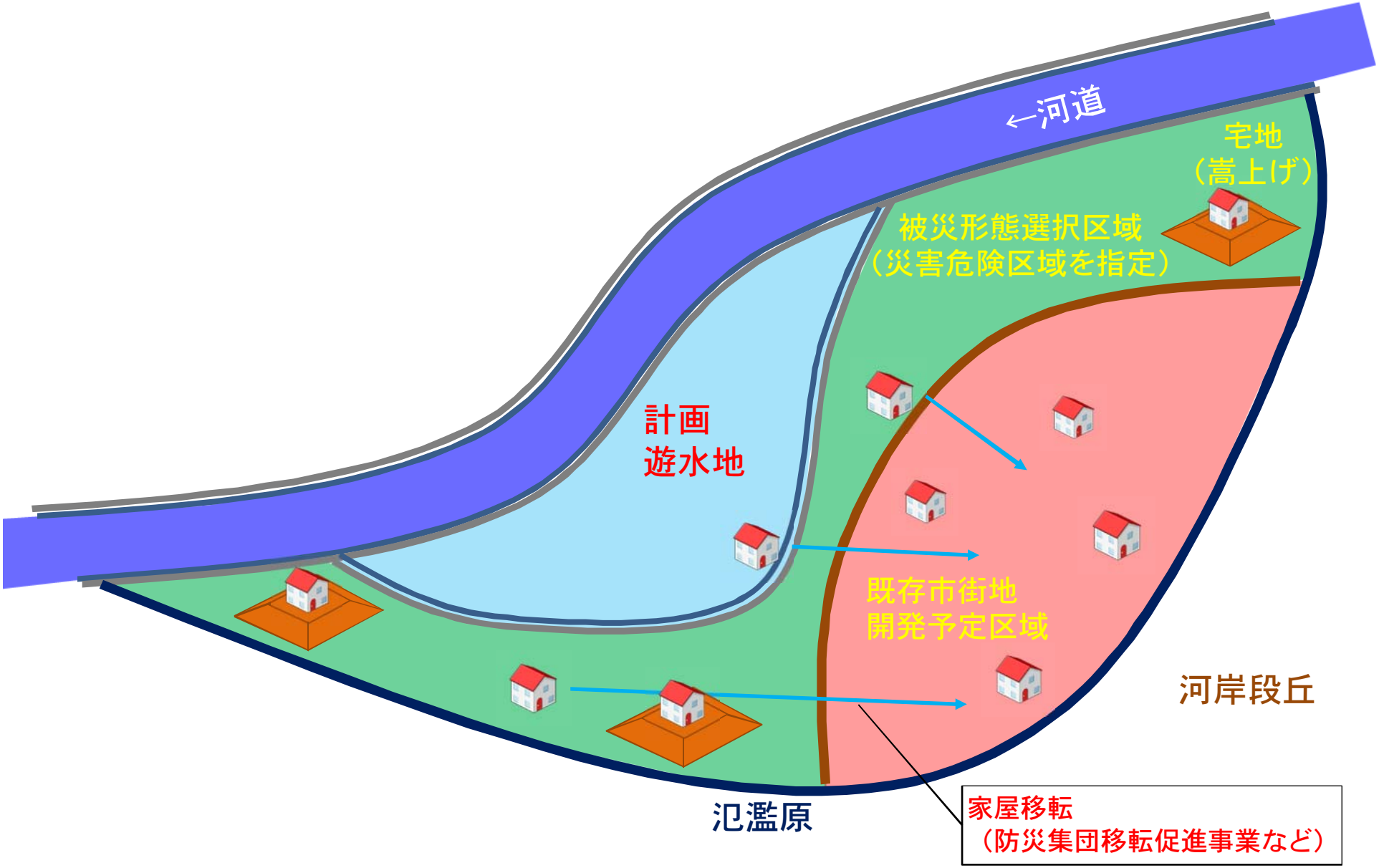
1880年（明治13年）～1886年（明治19年）頃の越辺川・都幾川・高麗川

第6回荒川水系（埼玉県域）大規模氾濫に関する減災対策協議会資料（令和元年11月12日）抜粋



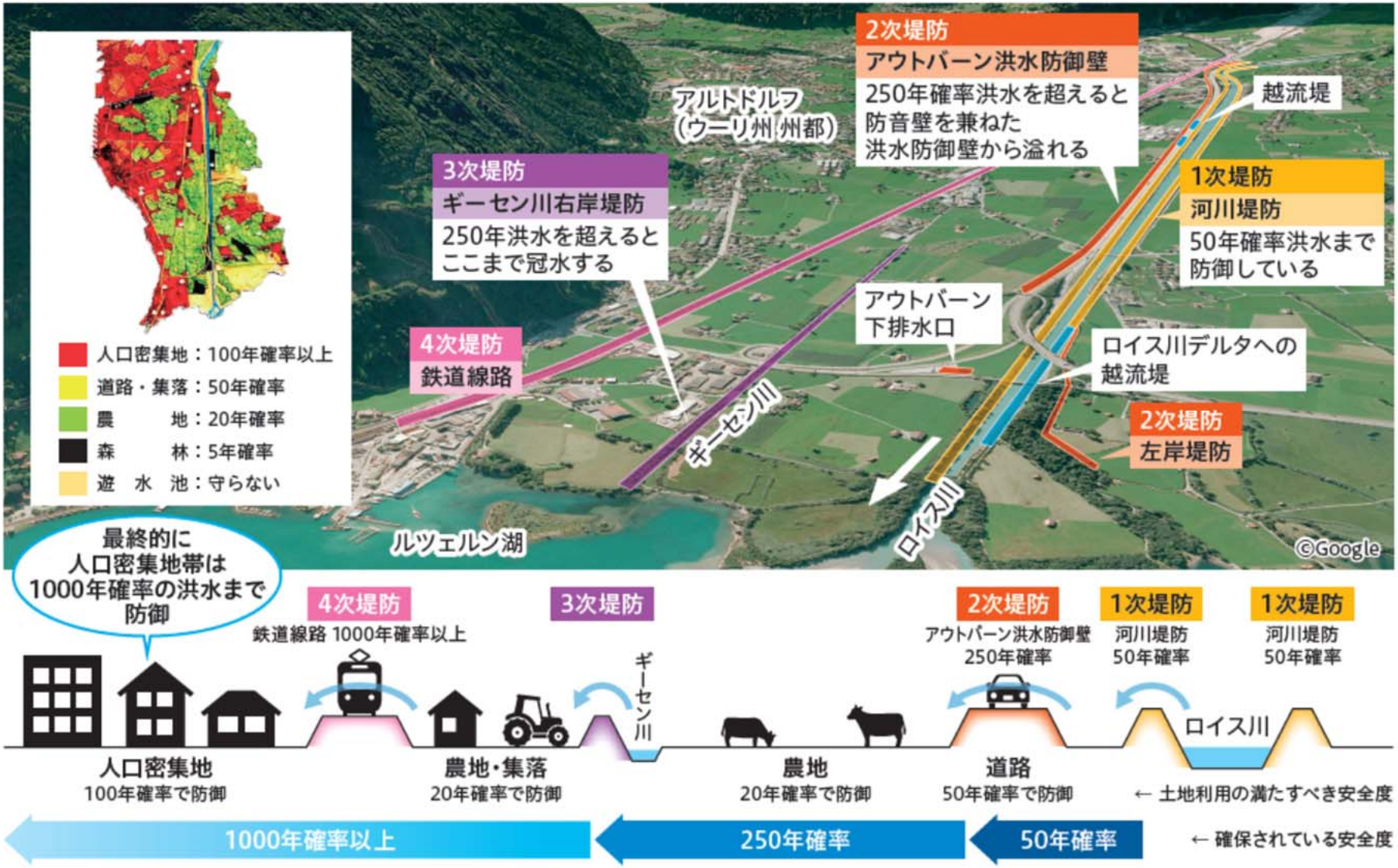
出典：「農研機構農業環境変動研究センター」ホームページ
第一軍管区地方2万分1迅速測図原図（明治13(1880)年から明治19（1886）年）を加工

氾濫域のあり方（案）


←河道
宅地
（嵩上げ）
被災形態選択区域
（災害危険区域を指定）
計画
遊水地
既存市街地
開発予定区域
河岸段丘
氾濫原
家屋移転
（防災集団移転促進事業など）

スイスにおける適応策

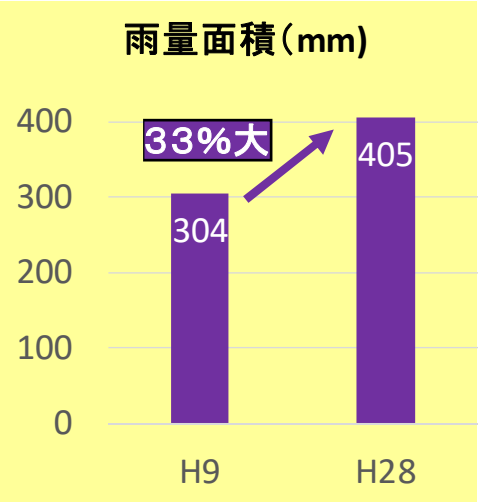
溢れ方を選択する多重防御施設の整備

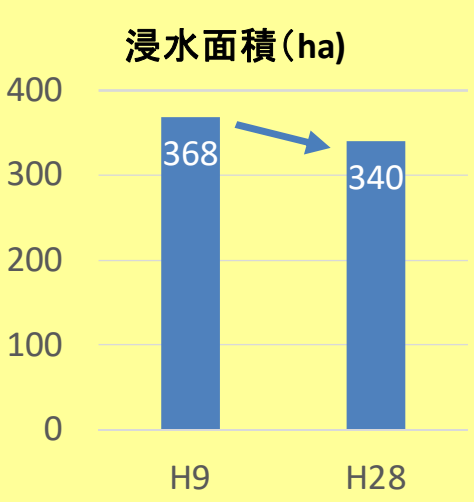


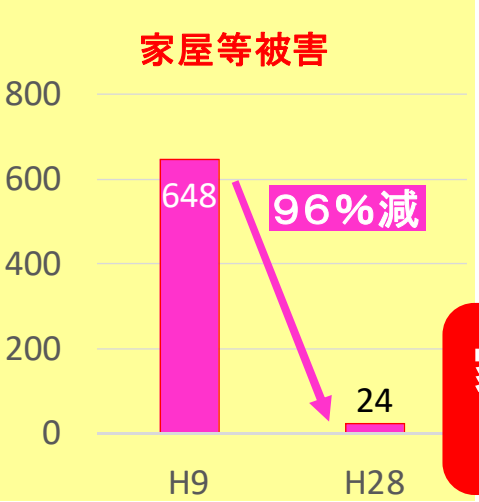
（資料：スイス・ウーリ州建設局）

山脇正俊（2007）、近自然河川工法におけるランドシャフトと危機管理
（出典：第４回大規模水害対策に関する専門調査会）をもとに作成

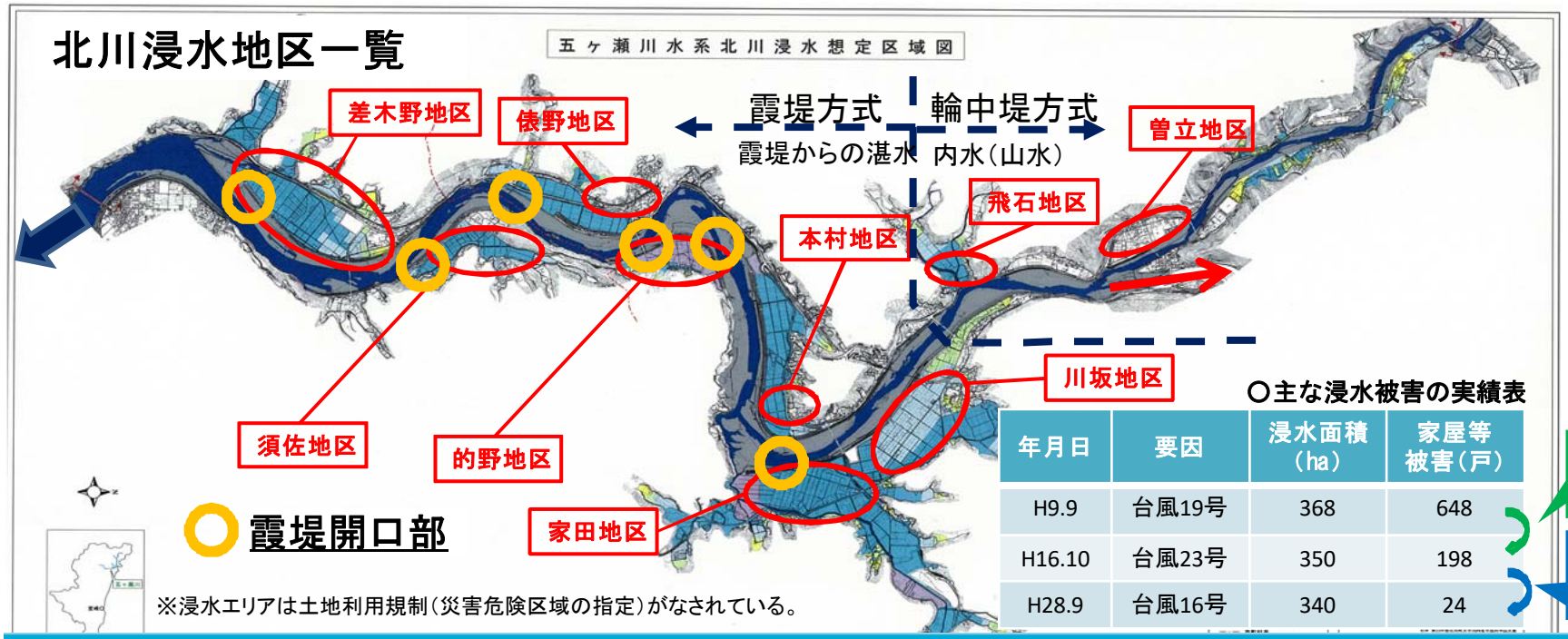
土地利用と一体となった治水の事例【北川※霞堤】







家屋等被害大幅減！



○主な浸水被害の実績表

年月日	要因	浸水面積(ha)	家屋等被害(戸)
H9.9	台風19号	368	648
H16.10	台風23号	350	198
H28.9	台風16号	340	24

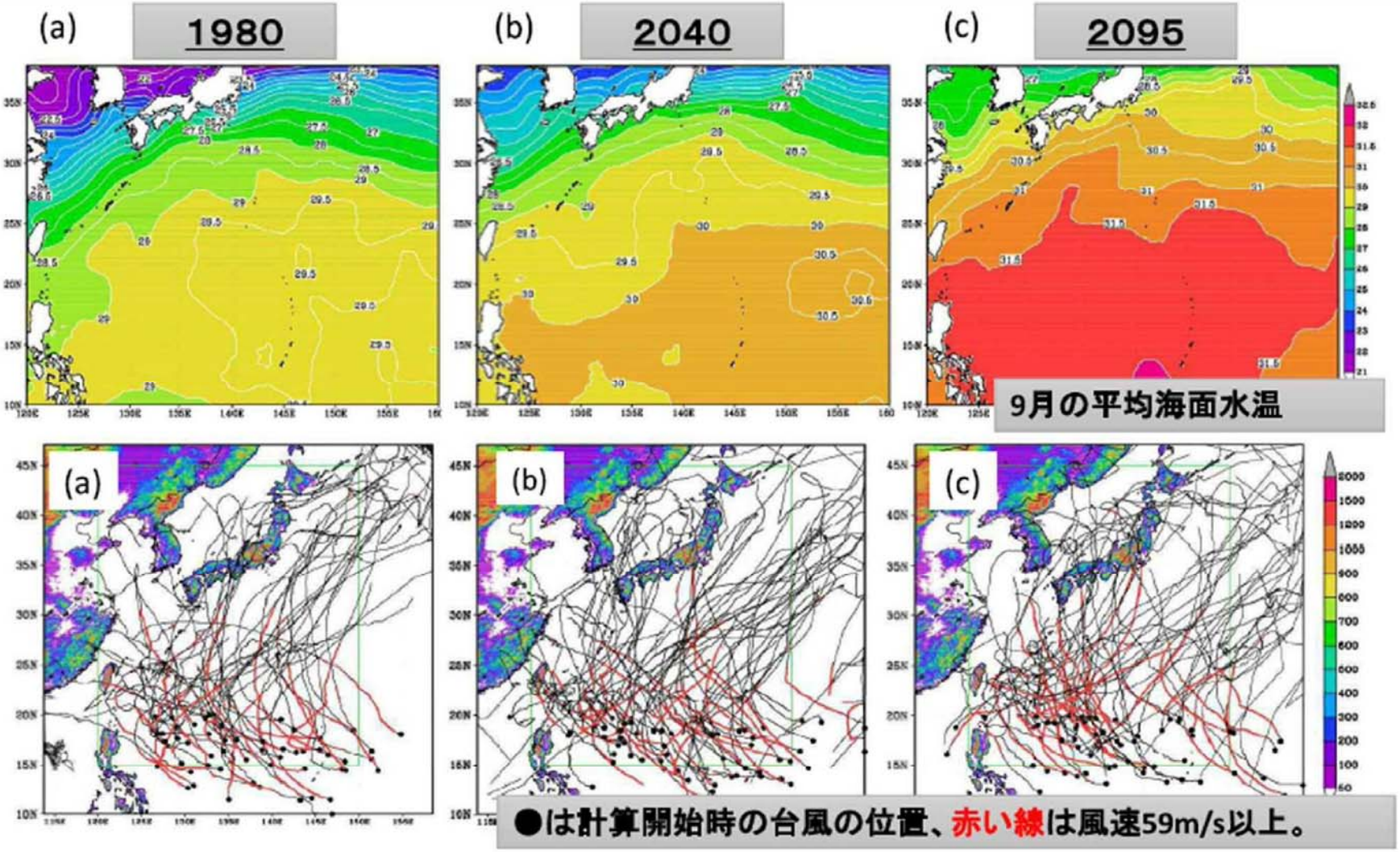
激特事業(H9～H16)による水位低減効果

水防災事業(H16～)による宅地嵩上効果

※九州地整延岡河川国道事務所の記者発表資料を参照
(http://www.qsr.mlit.go.jp/nobeoka/pdf/kisya/281018.pdf)

出典：参考資料（令和元年10月）
【参考資料】気候変動を踏まえた治水計画のあり方

台風の通過経路の北上化・大型化



◆ （上）現在気候➔近未来予測➔21世紀末　と日本付近の平均海面水温は上昇する。
◆ （下）海面水温上昇により21世紀末の気候では非常に強い台風が中緯度に到達する。

（坪木 2018）

出典：高薮委員提供資料

荒川上流　広域ネットワーク接続状況

凡例：接続済み